

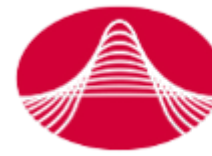
令和3年度 TRセンター運営戦略連絡会 報告

担当理事

名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター
水野 正明

連絡会世話人

岡山大学理事（研究担当） 副学長
那須 保友
岡山大学病院 新医療研究開発センター
櫻井 淳



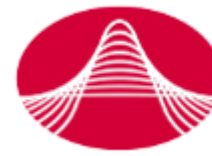
TRセンター運営戦略連絡会

□連絡会の趣旨・位置づけ

- ◆TRセンターの自立化と人材のサステナビリティ確立を目指し、拠点間の取組を共有する。
- ◆課題の解決に向けた拠点間の情報交換
- ◆ARO協議会、AMED等へのセンター運営に関わる意見交換

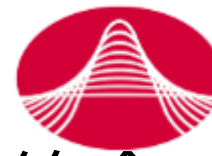
□メンバー（18機関） 令和3年9月現在

- ◆北海道臨床開発機構、東北大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸医療産業都市推進機構、九州大、群馬大、千葉大、国立がん研究センター、慶應大、名古屋医療センター、筑波大、長崎大、**がん研究会有明病院、順天堂大、岡山大**



TRセンター運営戦略連絡会（直近5回）

	開催日	議 題
第6回	H28年8月29日 (大阪)	<ul style="list-style-type: none">• TRセンターのサステナビリティ確立に向けた各拠点の取り組みの現状• 拠点の自立化に向けた収益増の取組について
第7回	H29年9月25日 (名古屋)	<ul style="list-style-type: none">• TRセンターのサステナビリティ確立に向けた各拠点の取り組みの現状• ARO収入増加に向けた各拠点の特徴的な取組み
第8回	H30年8月30日 (福岡)	<ul style="list-style-type: none">• TRセンターのサステナビリティ確立に向けた各拠点の取り組みの現状• 経営を効率化するための各拠点の特徴的な取組み
第9回	R元年9月26日 (仙台)	<ul style="list-style-type: none">• 医師主導治験データの有償移転にかかる契約ひな型について• オープンイノベーション加速化のための取組み• 第4期橋渡し事業への提言（特にGlobal展開について）
第10回	R3年8月4日 (オンライン)	<ul style="list-style-type: none">• 拠点の運営に必要な財政収支の見通し及び公的資金以外の外部資金獲得に向けた特徴的な取組み



第10回TRセンター運営戦略連絡会 (主な議題)

- 拠点の運営に必要な財政収支の見通し及び公的資金以外の外部資金獲得に向けた特徴的な取り組み

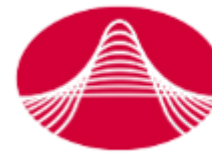
- 従来のARO支援収入に加えて・・・
 - ◆データ権利の有償化/AIホスピタルと関連したRWDの活用
 - ◆大学基金、寄付型クラウドファンディング
 - ◆オープンイノベーションプログラム会員制度
 - ◆高度検査機器/CPCの機能を活用した受託業務の手数料
 - ◆希少がんレジストリと医師主導治験の実施を合わせた付加価値の高いプロジェクト受託
 - ◆ベンチャーキャピタル (VC) との共同プログラムによるベンチャー支援→ストックオプション収入を見込む
 - ◆間接経費のAROへの配分増
 - ◆大学出資比率100%の子会社設立



連絡会での拠点意見まとめ

- 各拠点ともすでにARO支援業務による料金徴収の実績があり、大学経営に大きなインパクトを与えつつある。「理想的な大学内ビジネスモデル」になりつつある
 - ◆各拠点の取組みは、それぞれの大学の特性に応じて、徐々に進化してきた。従来型のARO支援収入のみでなく、多彩なビジネスモデルが検討されている。
 - ◆一部の大学では、橋渡し研究支援機関の申請を控え、オープンイノベーションのための組織改編が進んでいる。

- さらに、今後
 - ◆民間の研究資金をいかに経営に取り込み、センターに活かすか
 - ◆治験・臨床試験データの有償分譲
 - ◆ワークフォース・マネジメントと、受託試験数の増加への対応
 - ✓魅力のあるキャリアパス提示、人事考課への反映



まとめ

- 各拠点とも橋渡し研究支援体制・ARO臨床研究支援体制整備は完了し、オープンイノベーションによる民間資金の獲得、異分野融合シーズ支援といった新たな領域へのチャレンジが進んでいる。
- TR連絡会で「各拠点の成功事例を共有」
 - ◆民間の資金を経営に取り組む
 - ◆大学本部・事務への情報共有・成功事例の共有を行う。
- AMEDへの要望
 - ◆AMEDからの競争的研究資金の削減・停止を回避
 - ARO・病院経営に資する外部資金として活用できるよう継続して要望する。